

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町

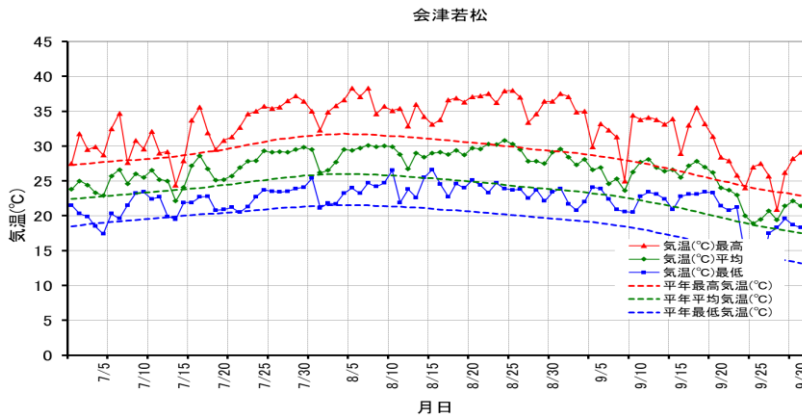
JA会津よつば（あいづ地区）・JA全農福島県本部

福島県農業共済組合会津支所・福島県会津農林事務所農業振興普及部



令和5年の8月～9月の高温による水稲への影響について

1 7月～9月の気温について



・今年の夏は、気温が高く経過し、特に7月から8月にかけては、平年を大幅に上回る日が続きました。

・若松アメダスでは、7月から8月にかけて、最高気温が35°Cを上回った日が31日、最低気温が25°Cを上回った日が5日ありました。

2 高温の水稲への影響

米の1等米比率はJA会津よつばあいづ地区の平均で**68.3%**(11/20現在)でした。出穂後の高温による影響で、**白未熟、乳白等**が多発したことから、昨年に比べ大きく低下しています。

出穂後20日間に、**26°Cを上回る温度**（平均気温が30°Cの時は26°Cを引いた4°Cとなる）を積算した数値が**20°Cを上回る**と品質低下の危険性が増すとされています。

若松アメダスで各品種の出穂後20日間の数値を計算すると、**コシヒカリ：68.4°C**、**天のつぶ：66.2°C**、**ひとめぼれ：57.4°C**となり、危険性が増すとされる20°Cを大きく上回っており、品質に大きな影響を受けたことがわかります。

3 高温に対する対策について

【稲体の温度を下げる方策】

- ・出穂前頃から、水管理は飽水管理（足跡に水がたまる程度）とし、ほ場が乾かないようにしましょう。

【稲体の活性を高めるための方策】

- ・出穂期前に葉色がさめると品質低下につながるため、その場合は、追肥を行いましょう。ただし、食味に影響すること考えられるため、施肥量、時期についてはご相談ください。
- ・登熟期の根の活性や窒素吸収能力が低下すると品質低下につながる場合があるため、堆肥や土壌改良資材の投入、深耕など土作りを行うとともに、生育期間中にケイ酸カリの施用を行いましょう。特に、ごま葉枯病が発生するような地域では、積極的に土作りに取り組みましょう。



高温障害で品質の低下した玄米

令和5年の水稲の生育経過について

1 播種期～育苗期

- ・播種作業は概ね平年並みに行われました。
- ・大きな病害の発生は確認されませんでしたでしたが、一部で籾枯細菌病等の発生が見られました。

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
播種期	本年	4/15	4/19	4/27
	平年	4/15	4/19	4/27

2 移植期

- ・田植えは概ね平年並みに進みました。
- ・活着も良好で問題は見られませんでした。

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
移植期	本年	5/13	5/20	5/25
	平年	5/15	5/20	5/26

3 分けつ期

- ・天候は良好で生育は順調に進みました。
- ・草丈はやや長く、莖数は平年並み～やや少なく、葉色は平年並～やや薄い傾向でした。
- ・葉いもち等の病害の発生は見られませんでした。



7月初めの稲の様子

4 幼穂形成期

- ・幼出形成期は各品種ともほぼ平年並でした。
 コシヒカリ（平坦部）：7/15（+1）、ひとめぼれ（平坦部）：7/8（0）
 里山のつば（山間部）：7/8（0）（ ）内は平年差

5 出穂期

- ・7月からの高温により、出穂期は平年に比べ3日程度早まりました。

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
出穂期	本年	7/29	8/4	8/9
	平年	8/1	8/7	8/12

6 登熟期～収穫期

- ・高温が続いたため登熟は平年より早く進み、それに伴って収穫も平年より早く進みました。
- ・稈長は平年並～やや短く、穂数は平年よりやや少く、穂長は平年並～やや長となりました。倒伏の発生は少なくなりました。
- ・収量は、穂数が少なかったことから、m²当たり籾数は平年より少なくなりましたが、千粒重、登熟歩合が平年を上回ったことから、平年並程度となりました。

品種	出穂期	
	本年	平年
コシヒカリ（平坦部）	8/6	8/9
ひとめぼれ（平坦部）	7/31	8/2
ひとめぼれ（山間部）	8/7	8/9
里山のつば（山間部）	8/4	8/7

時期		始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
収穫期	本年	9/17	10/3	10/14
	平年	9/26	10/7	10/20

さまざまなリスクに備え収入保険に加入しましょう！
 （青色申告を行っている農業者が対象です）